

## 第2回放課後対策事業運営委員会 会議概要（議事録）

●日 時 平成27年8月12日（水） 午前9時30分から午前11時00分

●場 所 我孫子市役所 議会棟 会議室A・B

●出席者

委 員 北原靖子、小谷愛子、有馬ちえみ、中嶋康貴、坂手千代子、浦島誠、山口祐子、上野茂  
平八重敬子、池上真千子、鈴木幸子、小林加代、増田建男、鈴木与志実、丸智彦、長谷川敬一

事務局 コーディネーター：森井貴美子、大野敦子、野原明美、河村千春、飯塚章江、並内千緒  
子ども支援課：相良輝美、藤田航介

●事前説明

- \* 議事録作成のための録音許可について
- \* 傍聴要領の承認について
- \* 資料確認

1. あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について
  - (1) 我孫子第二小学校の運営について
  - (2) 高野山小学校の運営について
  - (3) 四小あびっ子クラブの準備状況について
  - (4) 布佐南小あびっ子クラブの運営について
  - (5) 夏休みのイベントについて（三小・並木小）
  - (6) 「平成26年度 あびっ子クラブにおける利用児童数」
2. 放課後対策事業の進捗状況について
  - (1) 私立幼稚園における小学生の預かり保育について
  - (2) 12校目のあびっ子クラブについて
3. 学童保育室及びあびっ子クラブにおける学習支援について
4. その他  
次回以降の運営委員会開催の日程について  
第3回 11月中旬予定

公開／非公開：公開

傍聴人：有（1名）

●会議概要（要約）

【開 会】

- ・ 議事録作成のため、録音させていただきたいがよろしいか。[異論なし]
- ・ 「会議の公開に関する情報公開条例」、「審議会等の会議の公開に関する規則」に基づき、原則公開としたい。また、会議の公開にあたり、傍聴に関するルールを定めた「傍聴要領」（案）を作成しましたので、ご承認いただきたいがよろしいでしょうか。[異論なし]
- ・ 異論がありませんので、「傍聴要領」に沿って、傍聴人の手続きを行わせていただきます。本日は、

傍聴人の届け出は1名です。

(委員長) まず、一点目、あびっ子クラブ及び学童保育室の運営についてです。

我孫子第二小学校の運営について、二小あびっ子クラブコーディネーターをお願いします。

(委員) 二小あびっ子クラブのコーディネーターです。オープンから現在までの様子をお話しします。

登録人数は、6月1日が313名、そこから少しずつ増えて現在328名、8月16日からもう1名増えて329名となります。利用人数は6月1日オープン日の月曜日から一週間は、100名を超え、一番多かったのは金曜日の121名でした。2週目から少し落ち着いてきて、60名前後、多い日で70から80名、4週目から50から60名前後の利用でした。7月2日、3日、6日が短縮日課で13時40分と早い下校時間となり、2日が91名、3日73名、6日73名と利用が多かったです。特に低学年の利用が多く、3時から4時ごろに帰る子どもが多かったです。また、16日・17日も短縮日課で給食がなくなりましたので、16日は30名がお弁当を持ってきて、61名の利用がありました。17日も30名強のうち、9割の子どもがお弁当を持ってきての利用でした。夏休みに入った21日は、57名の利用で、20名程度がお弁当を持ってきていました。

その後、利用人数は落ち着いてきましたが、学童保育室のエアコンが壊れるというハプニングが起こり、あびっ子の部屋に子ども達が涼み来て、27日は90名の利用となりました。その後、だんだん落ち着いてきて、今は15名程度がお弁当を持ってきて、30名弱の利用となっています。曜日で見ると、水曜日が利用者は少ない傾向にあります。

続いて子どもの様子ですが、最初のころは、友だち数人で集まり、中にあるオセロやレゴ・トランプ・ドミノ・四目並べ等あるもの一通り遊んでいました。塗り絵や、すずらんテープで三つ編みを作る遊びが人気です。すずらんテープは一日一人2本と決めています、好きな子は毎日つくるため、たくさん手に巻きついている状態です。

あびっ子は遊びに来るところとと思っていましたが、思ったより勉強する子が多く、隣の図書室を借りて「勉強する子は図書室を使っているよ」と声かけしたら、勉強する子は絶えずそちらに流れて静かに勉強していました。最初は高学年の利用が多く、部活動が4時40分ぐらいに終わるのですが、そこから来て10分ぐらい子ども達同士でしゃべったり勉強したりして一息ついてから家に帰っていました。

おもちゃ等も人数が50名ぐらいに落ち着いてから「人生ゲーム」を出し、30名ぐらいになったところで少し広さを要する「ジョイントマット」を出しました。「ジョイントマット」は組み立てて家の形を作ったり迷路を作ったりと一番人気があるおもちゃです。

夏休みに入ってからチャレンジも始まり、「あびっ子の碁」、「麦の会」によるお話会が始まり、本日もこれから工作があります。6月からカレンダー作りを始めています。天気の良い日は、体育館や校庭に出て、サッカー・縄跳び・バスケット・バトミントン等をして遊んでいます。夏休みに入ってから暑い日が続いたので、室内で遊ぶことが多いです。二小の子ども達は、高学年と低学年が一緒になって遊んでいる姿が見られます。これもあびっ子の良いところだと思います。以上です。

(委員長) ご質問やご意見につきましては、一通り報告が終わってからお伺いします。続きまして、高野山小学校の運営について、高野山小あびっ子クラブのコーディネーターをお願いします。

(委員) 高野山小学校をコーディネーターです。

当初は9月1日オープンの予定だったのですが、8月1日オープンに変更になり、オープンし

て1週間が経ち、みんなクタクタになっているところです。準備期間が短くなってしまったということもあり、お部屋を用意して、子どものものを用意して、オープンしました。

夏休み途中からのスタートだったので、そんなに子ども達は来ないかなと思っていたのですが、1日は土曜日で手賀沼花火大会ということもあり少なかったのですが、8月3日月曜日は、とてもたくさん子ども達が来て、子ども支援課からも手伝いに来てもらい、なんとか乗り切ったという状況でした。メインルームが地域交流教室という、とても広いお部屋を借りているため、当初は半分のスペースを使って運営するつもりだったのですが、どんどん子ども達が来て、100名以上になってしまったので、結局は全面を使用しての運営となっています。とても広いスペースの良さもあるのですが、夕方は地域交流教室として地域の方が利用できるように戻さなければいけないので、毎日机をしまったり、朝の準備をしたりするのが大変です。

あびっ子クラブに対する私のイメージは、中にはお父さんやお母さんが働いていて帰ってくる時間まで一日いる子もいると思いますが、そんなに長い時間利用するものではなく、お母さんが「ちょっと遊んでおいで、飽きたら帰っておいで。お昼になったら、帰っておいで」と言われてくるのかなと思っていたら、9時から17時まで長時間いる子が多くとても驚きました。お昼になってもあまり帰らず、50名以上がお弁当を持ってきています。

2週目に入って人数的には落ち着きましたが、まだまだ賑やかです。

(委員長) 続きまして、第四小あびっ子クラブの準備状況について、四小あびっ子クラブのコーディネーターをお願いします。

(事務局) 四小あびっ子クラブのコーディネーターです。四小あびっ子クラブは、9月1日オープンに向けて、今準備しているところです。全校生徒817名のうち589名が登録しています。まだ申請が続いており、毎日、登録人数が増えています。6月後半から7月中旬にかけて、他の学校のあびっ子クラブを見学させていただき、7月後半からあびっ子クラブのメインルームになる第四小学校の第二理科室で準備を始めています。現在、部屋の清掃やおもちゃの整理しており、カーペット貼りが終わり次第、備品を搬入する予定です。まだわからないことがあるのですが、他のあびっ子クラブの先生に相談をしており、これからもご協力願えればと思います。

子ども達が安心して遊ぶことも出来て、地域の方との繋がりも作っていきたいと思います。よろしくをお願いします。

(委員長) 続きまして、布佐南小あびっ子クラブの運営について及び布佐小学校の子ども達の利用について、布佐南小あびっ子クラブのコーディネーターをお願いします。

(事務局) 布佐南小あびっ子クラブのコーディネーターです。

布佐南小のあびっ子クラブの登録は、100名です。今年度から長期休業期間のみ布佐小学校の児童も受け入れるということで、春休みから受け入れています。春休みに関しては、2名の利用だったのですが、その後、一年生の登録もあり、現在37名の登録があります。そして、夏休みに入り、一番少ない日で3名でしたが、火水金は多くて10名程度の利用があります。時には、学童保育室の児童を除くと、布佐南小の登録者より布佐小の登録児童の方が多い日があります。

先ほど、高野山小のコーディネーターからの報告にもありましたが、布佐小から来る児童については、毎日来る子は決まっており、朝9時には来て、17時までいる児童が多いです。本来であれば、学童保育室を利用する家庭状況と思われる児童が多く見られました。布佐南小と布佐小の両方から来ていますが、子ども同士の関係は非常によく、保育園や幼稚園からすでに知り合っている子が多いです。布佐小から来る児童は「〇〇ちゃん、いるね」といった話をしており、親

たちも知り合いとのことなので安心してあびっ子クラブに子どもを送っています。布佐小同士のトラブルは多少ありますが、学校が違うことによるトラブルは無く、運営上問題はありません。昨年は布佐南小の子どもだけでしたので、8月に入ると利用はだいぶ減っていました。しかし、今年は8月に入って10日ほど経ちますが、昨年の今頃と比べると、賑やかに過ごしています。以上です。

(委員長) 続きまして、5点目の夏休みのイベントについて、三小あびっ子クラブのコーディネーターをお願いします。

(事務局) 三小あびっ子クラブコーディネーターです。

8月7日に行われましたドラマセラピーについて、報告させていただきます。

大きな模造紙を持ってきましたので、こちらを使用して説明します。

毎年、子ども支援課から紹介してもらい、ブライアンさんという方がイギリスからいらして、ドラマセラピーを実施しています。どのようなことをするのか私自身もよくわからなかったのですが、最初はコミュニケーションづくりで子ども達が輪になってゲームを行いました。その後グループ分けをして、一人ひとつ自分で好きな動物を取りに行きます。その好きな動物を選んだら、自分で名前・年齢、例えば「ゴリラのモモちゃん、15歳、女の子、好きなものはバナナ・お友達」というように、自分の思っているように設定します。模造紙に書いてある黒い線が島になります。

島の中の好きな場所・自分の居心地のいい場所に動物の住む場所を決めます。この島で生きていくために、二つだけ何かを決めていいよとすると、ある子は「川があって、お魚がいるといい」、ある子は「金銀財宝、お宝があるといい」、ある子は「バナナと、ちょっと弱いからボディガードが必要」とそれぞれ考えます。その後、目的地を作って、目的地にはすごく楽しいものがあるって、そこに行くようにみんなで書いていきます。ある子は「りんごのなる木」を作ってそこに向けて道を作って、無事りんごが食べられるようになります。次はお友達のところに行けるように道を作ってみようというように、どんだんドラマになっていき、子ども達は夢中でいろんなことを試していきます。最後に、この島に名前を付けてみようとのことで、「元気な動物の島」という名前がつけられ締めくくりました。他には、凶暴な鹿がいて、みんなを食べてしまう島もありました。それぞれ子ども達がブライアンと一緒に楽しくお友達づくりをしながらいい時間を過ごせたと感じました。以上です。

(委員長) 次に、同じドラマセラピーを実施した並木小のあびっ子クラブの報告をお願いします。

(委員) 大学での調査の関係で参加させていただきました。並木小では、三小ほど綺麗には仕上がらず、家を独占する凶暴な動物がいました。このイベントを主催しているイギリスのブライアンは、ドラマセラピストといってイギリスでの国家資格をお持ちです。主に、青少年以下で、例えば、リストカットをしてしまった子や拒食症の子といった色々な心身の問題を抱えている方たちの心を和ませたり、自分を見つめ直させたりというお仕事をしています。先ほど、「凶暴な動物」と発言しましたが、そういった状況になるのは織り込み済みです。イベントが終わった後に、並木小あびっ子クラブコーディネーターと話をすると、朝から荒れていた子がいたとのことですが、イベント後のその子はすっかりした顔で、とても穏やかに戻っていたとのことでした。

本日午後も並木小あびっ子クラブで同じイベントを実施する予定で、川村学園女子大学からお願いをして、地域の元気な高齢者の方にも参加してもらいます。これには意図がありまして、川村学園女子大学では今まで放課後の研究をいくつかして参りましたが、このようにあびっ子クラ

ブが増えていく中で、これから中身をどうしていくかと考えるところによりやく入っていけるだろうと考えています。少なくとも、私はサポーターになる地域の方たちが入ってくださって盛り立ててくださることはすごく大事だと思いますが、そのためにどうしたらいいのだろうと考えたところ、いきなり入ってうまくいくわけではないので、入り方という点で、ドラマセラピーのようなコミュニケーションの取り方を学んでいくのは、なかなか良いのではないかと考えておりましたので、そこで高齢者の方に入っていただこうとしているわけです。

地域の元気な方は、子どもに教え込もうとしたり、思いを伝えようとしていたりして、子どもの方はそれがあまり嬉しくなかったりして、必ずミスマッチが生じます。その中でどのような出会いがあって、それこそ、動物のバトルがあって、どんなふうに関わりがあるのかという部分をみていけると良いのではないかと考えます。もし可能性があれば、いずれサポーターになった方達がドラマセラピーのようなものを通して、子どもと関わっていくというようなシステムが出来てくると中身の充実に繋がっていくかなと考えています。いずれ結果が出ましたら、ご報告できればと思います。

(委員長) 続きまして、平成26年度あびっ子クラブにおける利用児童数について、事務局から報告をお願いします。

(事務局) 平成26年度あびっ子クラブにおける利用児童数の報告をさせていただきます。まず、平成27年4月30日までのあびっ子クラブの登録児童数と利用児童数になります。

各あびっ子クラブの利用率は、登録児童数のうち実際に利用した児童の割合になります。

どのあびっ子クラブでも低学年の利用率は高くなっています。高学年になると、部活動や他の場所で遊ぶことが多くなるため利用率は低くなっていますが、湖北台西小や湖北台東小、並木小の地域では、高学年も利用が高くなっています。

(委員長) 放課後対策事業の進捗状況(1) 私立幼稚園における小学生の預かり保育について、事務局から報告をお願いします。

(事務局)

今年度4月1日から市内の私立幼稚園において、小学生の預かり保育事業を実施していただいています。今年度は1園、湖北の白ばら幼稚園で実施していただいています。春休みには10名前後、その後通年生については、1名から2名の利用ということで報告を受けていましたので、今後の利用について若干心配していましたが、夏休みの利用状況を確認したところ、現在17名の登録があるとの報告をいただきました。先日、様子を見学させていただいたところ、ご兄弟で利用されている方が多く、とても賑やかな教室の中で先生達も一人体制だったところを二人体制に増やして対応いただいています。白ばら幼稚園は自然が豊かなところで運営をされているので、その自然を使ったり、井戸水でプールを作って水遊びをしたり、子ども達は自由に楽しく、小さい子と大きい子が一緒になって遊んでいる様子がうかがえました。8月16日号の広報で再度お知らせをして、今後の利用者増のアピールを図っていきたいという園の方針がありますので、市の方でお手伝いさせていただきたいと思います。また、今後は他の園にも白ばら幼稚園の様子もお伝えしながら、ご協力いただけるようお願いしていききたいと思います。湖北地区の方で17名というのは非常に多い数字だと思っています。

(委員長) (2) 12校目のあびっ子クラブについて報告させていただきます。先ほど事務局から報告があったとおり、平成26年度まであびっ子クラブは7校で実施してきました。今年度は新たに3校で開設、8校目が我孫子第二小学校、9校目が高野山小学校、10校目が9月1日からオ

オープンします我孫子第四小学校になります。11校目につきましては、今年度設計をしていますが、平成29年度新木小学校でオープンする予定です。12校目として、湖北小学校を予定していましたが、保護者からは是非湖北小でも早くやって欲しいと要望が多数寄せられたため、学童保育の父母会の了解をいただいた後、7月8日に教育委員会と子ども部と一緒に湖北小学校へお願いに行き、あびっ子クラブのメインルームとなる部屋を決めて、平成28年のオープンを目指すということになりましたので、ご報告いたします。以上です。

(委員長) 質問、ご意見等ありますでしょうか。

(委員) 確認ですが、幼稚園における預かり保育と保育園などに預ける違いは何でしょうか？利用料金や形態が違うのでしょうか？基本的な部分ですが、教えてください。

(事務局) ご存知のとおり、現在保育園の待機児童ゼロを維持するために、我孫子市は色々な施策を打ち出しています。その中の一つとして、我孫子市には公立の幼稚園が1園もないため、私立の幼稚園にお願いして預かり保育という事業を実施していただいています。基本的には年長さんまでのお子さんを預かっていただくというのですが、更に小学生も預かって欲しいということで始めていただいたのが、これまで説明した私立幼稚園における小学生の預かり保育になります。基本的に時間あたり200円程度の利用料がかかります。学童の場合、単発で何時から何時までだけ、何日だけというお預かりはできないのですが、幼稚園の原則保育は1時間200円という設定をしていただいているので、お母さんにちょっと用事がある時や、下の子どもを病院に連れて行く時、パートがシフト制で月曜日だけ働く時等、単発で利用したい方にとってはメリットがあるものとなっています。ただ、子ども支援課では学童保育料が夏休み12,000円、他の時期については8,000円という料金を設けているので、預かり保育の月額についてはこの金額を超えないことをお願いしています。対象児童は6年生までというのは体格差等も考えると非常に難しいところもあるので、3年生までとさせていただいています。現状では、ご兄弟で利用されている方の中には4年生もいるというお話は何つていますが、今まで園に通っていた子でもあり、下に兄弟もいるので、特に小さい子どもたちとの関わりにおいて問題はないということでお話は聞いています。

(委員長) 何かありますでしょうか。

(事務局) 今年、新たにあびっ子クラブを3校オープンし、全部で10校にあびっ子クラブが設置されました。あびっ子クラブは子どもたちが遊びにくる場としてスタッフも対応してきましたが、実際には、学校の宿題をする子がたくさんいます。話を聞いてみると、保護者や学校の先生と「宿題をしてから遊ぼうね」と約束をしていることがわかりました。夏休みにスタートをした高野山小あびっ子クラブでも、まずは宿題をしてから遊ぼうという子が非常に多かったです。

このような状況を踏まえると、あびっ子クラブは遊びの場の提供だけではなく、勉強をする場の提供についても考えていかなくてはいけないのではないかなということになりました。いくつかのあびっ子クラブでは、すでに学習に関連する取組がスタートしていますので、現状を報告させていただきながら、今後、どのようにあびっ子クラブでは対応していった方が良いのかを委員の皆さまの意見を聞きながら考えていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

日頃の様子を見ていると、低学年は「音読」が宿題となっています。音読は自分一人で読むのではなく、大人が聞いてあげることが大事です。学校でも、そのような指導をしているため、子どもたちはスタッフに「聞いて」と言ってきます。ご存じのように音読は1対1で聞いていなくはないので、スタッフの人数が多い時には聞いてあげることでもできるのですが、常にスタ

ップが掛りきりになることができません。勉強も子どもが一人でやるより、誰か大人が横にいるだけでも違うものです。例えば、答えを丸写しにするなどズルをする子もいます。また、低学年は文字を読まずに絵だけで回答する子もいます。このような子どもたちの様子を見て、サポーターさんから、子どもたちの勉強の手助けをしたいと声が聞こえてきます。しかし、学校によっては、学童保育室やあびっ子クラブでの勉強の仕方がよろしくないご指摘を受けることがあり、宿題ができない場合もあります。そうすると、宿題をやりたいけどやれない子が発生してきます。そこで、コーディネーター会議において、勉強について検討しました。その中で一番課題となったのが、「勉強を教える」と「勉強を見る」ことの違いです。「勉強を教える」ことは、教える側にも知識が必要です。そのため、第二の家庭と位置づけしている学童保育室でも「勉強を教える」ということはしてきませんでした。しかし、宿題の時間は設定しているため、「勉強を見る」「音読を聞く」ということはしてきました。

このような中、昨今、学校において学校支援ボランティアさんによるお勉強への取り組みが見受けられるようになってきました。その中に同じ学校の中にあるあびっ子クラブと協力して進めている取り組みもありますので、皆さまにご紹介したいと思います。

(委員長) では、二小あびっ子クラブでの取り組みについて報告をお願いします。

(委員) 二小には、放課後学習室というものが開催されています。

火曜日に実施をしており、7月はなく、9月は毎週、10月から1月は月2回、時間は9月10月が15時から16時半まで、11月から3月までが15時から16時まで、場所は会議室、教えてくれる方は、学習サポーター、地域の方、長寿大学生です。あびっ子クラブが6月1日にオープンしたばかりで、100名近い子どもたちがあびっ子クラブに来ていたため、事業をスタートした6月2日には、ほとんど子どもが来なかったそうです。学校からお手紙が3日に配られ、私たちも知るところとなり、次の火曜日にはあびっ子クラブに来ている子どもたちに声掛けをして、学習室に参加するよう促しました。16日、学習室がいつも使っている会議室が利用できなかったため、あびっ子クラブの隣にある図書室で開催しました。あびっ子クラブでは、日ごろから勉強は図書室でやるという習慣になっていたため、その日はとても多くの子どもたちが学習室に参加することができ、とても賑わっていました。あびっ子クラブとしては、隣の教室で開催していただいた方がたくさん子どもたちが参加できるので、非常にうれしことなのですが、火曜日に高学年の委員会やクラブ活動で図書室が利用されることが多いため、学習室で定期的に利用することが難しいようです。あびっ子クラブの子どもたちには、学習会の時には声をかけるのですが、会議室が3階にあるせいか、どうしても行く子が少なくなってしまうようです。今後の連携方法については、学校と一緒に考えていけたら良いと思います。

(委員長) 次に湖北台西小あびっ子クラブの取り組みについて報告をお願いします。

(委員) オープン当初から宿題をする子が非常に多かったです。6時間目の授業が終わるまで外遊びをしないというルールになっているため、5時間で帰ってくる低学年の子どもたちはその時間を勉強に充てています。また、外遊びの時間が4時半までとなっているため、部屋に帰ってきてから大慌てで勉強をする子もいます。最初の頃、あびっ子クラブで宿題をしている子の中に、答えを写している子がいると学校の帰りの会で取り上げられるということが発生しました。スタッフの見ていない隙に、こっそり答えを写しているところを同じクラスの子が目撃し、帰りの会で発表したそうです。その件があってから、しばらくはあびっ子クラブでの宿題はやめましょうということになりました。しかし、子どもたちもあびっ子クラブで宿題が終われば、家に帰ってゲーム

をしたりテレビを見たりと自由な時間が持てるということもあります。そこで、学校の先生たちと長い時間をかけて話し合いを重ね、スタッフが見るという体制を取る中で勉強をできるようにしてきました。特に低学年しかいない時間には、スタッフも3人いるため、子どもの様子をみることが出来ます。子どもも大人がいると、きちんと机に向かって勉強ができます。その際、子どもたちには誰が見ても読める字で書くことに心がけるよう声かけをしています。また、漢字がわからない時は「漢字ドリル見ようね」、算数でわからない時は「教科書見ようね」などの声かけもしています。このように「教える」のではなく「助言」という姿勢で臨んでいます。高学年は自分で取組んでから遊びに切り替えるということができています。また、西小あびっ子クラブには、支援学級の子どもたちが多く来ています。支援学級の先生が、今日やらなくてはいけない部分にシールをつけてくれるなどの工夫をしてくれているので、あびっ子クラブで宿題をやった時には、あびっ子クラブのハンコを押してあげます。それを見て、支援学級の先生がまたハンコを押してくれるというやり取りをしています。ハンコだけのやり取りですが、それを見て子どもたちは、楽しんで宿題に取り組んでいます。音読については、1対1で聞かなくてはいけないので、子どもたちがたくさん来ている日には、「今日はお家で聞いてもらって」と声をかけます。しかし、子どもも周りの様子を見ているので、例えば、みんなが外遊びに出て、部屋に残っている子が少なくなるとスタッフに「先生、聞いて」とくる子がいます。そんな時には、聞いてあげることが出来るため、音読カードにはあびっ子クラブのサインをしてあげます。子どもたちは、家に帰って「今日、あびっ子クラブで宿題全部終わったよ。」と親御さんに報告できる喜びもあるようです。親御さんも子どもに「がんばったね。」と声をかけることができ、とてもいい関係が築けているご家庭もあるようです。中には、宿題は家でするものと決めているご家庭もあるようなので、その子たちには、勉強を促すような声かけはしません。このように、学校の先生たちと協力しながら、進めています。

(委員長) 次に根戸小あびっ子クラブの取り組みについて報告をお願いします。

(委員) 根戸小あびっ子クラブでは、毎週月曜日、チャレンジタイムの「スタディタイム」として実施しています。根戸小あびっ子クラブは、メインルームの隣に事務室があるとともに、メインルームを分割して小さなお部屋をつくることのできるため、落ち着いて勉強に取り組める環境が揃っています。学校の先生を引退した方がサポーターさんとして見てくれています。日頃は、お家で「宿題はあびっ子クラブでやってらっしゃい」と言われるようで、いろいろなチャレンジタイムが開催される中、場所を見つけて宿題をする子どもたちが見られます。

(委員長) 次に布佐南小あびっ子クラブの取り組みについて報告をお願いします。

(委員) 布佐南小では、布佐小との関連が大きくなっています。学童あびっ子関係なく、普段きている子どもたちは、帰ってくると宿題をすることが定着しています。その時は、「教える」ことはしませんが、子どもたちから「ここがわからない」などの質問が出た際には「教科書出してごらん」「ドリル見てみようか」などの声かけをしています。ひとつヒントをあげると、次に進めるので、できるだけ援助をするようにしています。そうした中、お手伝いに来ていただいているサポーターさんや、他のスタッフには、自分たちが教わってきた時代のやり方と今の学校でのやり方は違うことがたくさんあるので、自分たちの思いで教えることはしないでほしいということを伝え合っています。

夏休みはどこの学童保育室でも学習時間が9時から10時くらいに設定しているところが多いのですが、今年の夏休みからあびっ子クラブが9時開室となったので、すぐ隣にあるあびっ子



クラブに来た子どもたちが遊んでいたのでは、学童保育室の子どもたちが勉強にしっかり取り組めないということもあり、あびっ子クラブでも9時から30分から1時間程度は勉強をやったり本を読んだりして過ごす時間として設定しました。そのため、あびっ子クラブだよりで「学習の時間にできる自分でできる勉強道具を持たせてください」とお願いしたところ、9時から利用する子どもたちはみんな、勉強道具や読みたい本を持ってきてくれ、みんなで取り組む時間ができました。

また、今年の夏休みの8月4日5日6日に、布佐中区3校学校支援地域本部主催の「布佐中区宿題・補習お助け隊」が布佐南小学校の図書室で午後1時から4時まで開催されました。地域の方たちの協力により実施されていたので、この3日間は、普段9時から10時に設定している学習時間を止めて、学童保育室の子どもたちは全員「布佐中区宿題・補習お助け隊」に参加しました。あびっ子クラブでは、日ごろよくきている子どもたちに、事前にお手紙を渡して参加を促しました。結果、夏休みは布佐小の子どもたちも布佐南小のあびっ子クラブに参加しているため、十数名の子どもたちが一緒に参加しました。学童保育室の子どもたちは1時間半くらいで部屋に戻ってきたのですが、あびっ子クラブの子どもたちの中には、「もっとやりたい」と言って、2時間以上参加している子もいました。地域の方たちがとてもたくさん来てくださっていたので、学童保育室とあびっ子クラブから子どもたちが参加しないととてもさみしくなっていたかなと思いました。地域の方からも「来てくれてよかった」という声が聞けたので、スタッフもホッとしました。この「布佐中区宿題・補習お助け隊」は昨年度から始まったそうなのですが、昨年は布佐中学校で実施したそうで、子どもたちの参加はほとんどなかったとのことでした。子どもたちにとって、地域の方の力によってとても良い学習時間が持てたのではないかと思います。

(委員長) 各あびっ子クラブからの報告は以上になりますが、事務局からありますか。

(事務局) 各あびっ子クラブで様々な学習活動が行われている中に、学校支援ボランティアさんからの申し入れによりタイアップをした布佐南小学校の事例がありましたが、実は布佐中区の学校支援ボランティアさんが、昨年ブライアンのイベントを布佐南小で実施した時に、地域の方と一緒に参加していただいたのをきっかけにお知り合いになったという経緯があり、実は今年、布佐南小で夏休み学習会があるので、あびっ子クラブに子どもたちがたくさんくるのであればぜひ参加を声かけしてほしいというお話がありました。このように学習の関係も含めて学校支援ボランティアさんから何か一緒にやろうよというお話があった時には、是非一緒にやっていきたいと考えています。二小も会議室学習会でやっているとのことですが、図書室で実施した方が子どもたちの参加率が高いということがあったり、湖北台西小のように、学校の先生がすぐにあびっ子クラブの部屋にお越しになったりという物理的なお部屋の構造もあると思いますが、学校の先生が学習をしている子どもたちを見に来てくれる、声かけしてくれるというとても良い状況が見られます。このような状況をみていくと、学校支援ボランティアさんや学校さんといろいろな取り組みを考えていかななくてはいけない時期になったのではないかと考えます。本日、布佐南小の先生がいらっしゃっているのは是非ご意見をいただけるとありがたいです。

(委員) 本当にあびっ子クラブと学童の方にもいろいろな工夫をしてやっていただいている中、遊ぶということだけではなくて、今年度は学習というところまでみていただいているということで、大変ありがたいと学校としても考えています。今日の話をお聞きして、最近の子どもたちは、コミュニケーションを取ることや社会性を養っていくことがむずかしい子が多くなっていることもあ

るので、ずっと家の中にいるよりあびっ子や学童に来てコミュニケーション能力や社会性を高め  
ていくことはとても良いことだと思っています。ただ行けばいいということではなく、やり方も工夫  
していかななくては内容が充実できなので、そういうことが大事だと思いました。ただ、すぐに先  
ほどの宿題については、学校としては学力向上のため子どもたちに学習習慣をつけさせたい、自  
分ですすんで学習する力をつけてほしいという考えのもとで、家庭学習を位置づけているので、  
ただ「やりなさい。とか、やれやれ。」ということではなく、中学年、高学年くらいになったら  
自分からすすんで学習するという姿勢を見つけてもらいたいという学校の狙いがあります。あび  
っ子クラブで学習をやっていただけることは本当にありがたいのですが、高学年になると教え方  
や解き方がきちんと決まっているため、「教える」ということは難しいと思いました。「見てあげ  
る」「聞いてあげる」という援助をしてあげるスタンスであれば可能ではないかと思しますので、  
是非お願いしたいと思いました。あとは、布佐中学校地区で学習支援を実施していただいている  
地域のボランティアさんも、「子どもたちにこうして教えたい」「こういうことを教えたい」とい  
う思いがあると思います。しかし、それでは最近の子ども達には合わないところもあるので、少  
しずつ進めていきながら、良い方法をみつけていけると子どもたちのためになるかと思いました。  
また、家庭教育は家庭に全てお任せということではないのですが、学校としては地域の方たちが  
がんばっていただいている中、お母さんお父さんにもう少しがんばって子どもの教育をしっかり  
やってほしいという思いがあります。

(委員長) 学校支援ボランティアの関係で委員いかがでしょうか。

(委員) 今話を聞いていると学校とボランティアが連携しているので、それはそれで進めていくこと  
が良いと思いますが、学校が何を望んでいるのか、何ができるのかということをよく擦り合わせ  
をしたほうが良いと思います。窓口が教頭になるかと思いますが、それぞれの学校によって関わ  
り方は違いますが、学校支援コーディネーターが直接、あびっ子クラブのスタッフと話をした方  
がスムーズな場合もあるかもしれないので、教頭と学校支援コーディネーターとあびっ子クラブ  
が連携すると良いと思います。宿題というのは、宿が家という意味の、家庭学習です。基本的に  
家庭でやるのが大事なので、そこを学校としては狙っているの、必ずしもあびっ子クラブで  
全部宿題を済ませてしまえばいいと思っている担任ばかりではないかもしれません。全く自分の  
力でできないような宿題を担任の先生は出さないはずなので、家でもあびっ子クラブでも、自力  
でできるはずなのです。しかし、それもできない子がいた場合には、学校でもお互いに学びあ  
うことを大事にしているので、必ずしも大人が教えるばかりではありません。「友だちに教わ  
ってごらんください。教えてもらいなさい。」とか「上級生に教わってごらん。教えてもらいな  
さい。」というような掛けをしてもいいのかもしれません。ところが夏休みの宿題にある読書感想  
文のような宿題はなかなかできない子がいます。そのため、普段やっている宿題と夏休みの宿  
題とは分けて考える必要があるかと思いますが、夏休みについても布佐南小の例のように、地  
域のボランティアとタイアップしてできることは間違いなくとても良いことなので、すぐ  
に取り組めることだと思います。以上です。

(委員長) 委員いかがでしょうか。

(委員) 今日、この会議に参加させていただいて、学童やあびっ子の先生方にとってもありがたい  
という感想を持ちました。学習支援の時に学校としていちばん心配しているのは、これまでも  
ご意見のあった今と昔では教え方が違うため、そこをしっかりと押さえたうえで、援助や  
ヒントを与えていくことを最初に、しっかりとつかんでいただいから関わっていただいている  
ということです。ま

た、宿題を子どもが家庭でやることを学校は望んでいるのですが、宿題をやろうという気持ちになった時、二小のように場を提供していただいて、子どもが「やった」「やった」と宿題を見せた時にスタッフさんにほめていただくと、また次へつながるといえることがあると思います。学童やあびっ子で宿題をやっても、お家でお母さんにノートを開いて見せ、お母さんから「きちんと出来たんだね。でも、ここがちょっと違っているよ。」という振り返りを家庭でもできるように継げていただけるとありがたいと思いました。学校でも、そのような声かけを子どもたちにしていきたいと思います。私が心配している点は、スタッフさんの人数が限られている中で宿題をみるために、外に行く子ども制限するようなことがないといいなと思っています。今の子どもは外で思いっきり遊ぶという経験が少ないので、そういう遊ぶということも大切にしていきたいと思っています。安心・安全を守る上でスタッフさんの人数配分が大丈夫なのかというところが気にかかったところです。布佐南小で学校支援ボランティアのみなさんが学習会をしたことはすばらしい流れだと思いました。布佐南小さんは夏の学習会を普段の活動とは別にやっているのですよね。本当にそのようなことを積み重ねていくと本当に家庭と地域、学校との教育力がひとつになって子どもの力を伸ばしていける素晴らしい実践だというふうにかがいました。以上です。

(委員長) ありがとうございます。実際、どうでしょう。お子さんを学童に通わせている保護者としてはスタッフや地域の方がいろいろな不安があるという中で、宿題をやっているというのはどのように思いますか。

(委員) ありがたいと思いますが、先程からあびっ子クラブだけのお話だけで学童保育室の状況が殆どないという、私は、子どもを学童保育に預けているので、この運営委員会で学童保育についての話が殆どないというのがなぜだろうというのが率直な気持ちです。

あびっ子クラブでは、子どもは自由に行き来できる。学童保育は安全な生活の場なのに、あびっ子クラブでは学習もみてもらえる。何故学童保育室に自分の子を預けているのか。その金額もそうですが、ちょっと差がありすぎるのではないのでしょうか。でもやっていることは同じでその違いがわかりません。知れば知るほどわからなくなっています。子どもへの方向性が同じではないかと思うのですが、年間にした金額は非常に違うのですが、その点はいかがなのでしょう。

(委員長) 事務局から説明をお願いします。

(事務局) 学童では定期的な学習の時間は必ず設けています。夏休みですと大体、朝一時間程度設けていますし、放課後であれば夕方設けています。学童でも教えるということではなく、「ちょっと勉強をやろうね。」という声かけなどの援助をしています。ただ、あびっ子でも宿題を持ってくる子がたくさんいるので、みんなが遊んでいる端でただやらせるより、少し大人の援助が必要なのではないかというところで、今日の議題として取り上げたところです。

(委員) 内容を聞いていると、あびっ子と学童との違いがないのではないかと感じます。

(事務局) 学習におけるスタッフの姿勢は、学童とあびっ子にそれほど差はないです。学童とあびっ子の違いの大きな点は、学童はきちんと出欠席をお母さんお父さんとお約束をして、スタッフがきちんと管理していることです。学童保育はお預かりをする場なので、お母さんが今日は利用しますと言ったのに子どもが来なかった場合には必ずその子がどうしたのかお母さんに連絡をして子どもの所在を確認します。あびっ子では、子どもの出欠確認はしません。家庭で利用するかしないかを決めての利用となるので、子どもがきてもこなくてもスタッフは管理しません。中には、「何時になったら帰して下さい。」というお母さんもいるんですが、あびっ子では対応していません。学童では当然、「今日、何時に帰して下さい。」「何時に迎えに行きます。」というのは全て

スタッフが対応しています。以上です。

(委員) その内容は存じ上げているのですが、今日の会議ではあびっ子と学校の話がたくさんあって、学童の話が全然聞けなかったのが残念です。

(事務局) 今日はあびっ子で今抱えている課題を議題として取り上げましたが、会議の最初に毎回学校の様子ということで学童のことも含めて委員の方から報告させていただいています。

(委員) 今日は少し朝仕事に行かなければいけなくて遅れてしまったのですが、もう少し学童の話が聞けたらと思っただけです。話を聞くとあびっ子クラブの話がとても多いので。

(事務局) そうですね。これからも、学童保育のことも報告はします。

(委員) お願いします。すみません。

(委員長) 学習支援ついて他にご意見等ありますでしょうか。ご質問でも結構です。

(委員) 実は、大学の別の研究でも地域比較をしており、去年、京都に出向していたので、今、京都の小学校で調査に入らせてもらっています。京都では、教育委員会が学童保育室を所轄しているので、学習に関しては、校長先生をはじめ教育委員会の中でどのようにすみ分けするかということがかなり緻密に議論されて、結果的には宿題はやらないということも決めて、先程委員がおっしゃったように、自分ですすんで学習をするように特化させて、どういうことを自分で勉強するのかを決めて、ドリルワーク等をやって、終わったらシールを貼るということを実施しています。我孫子市には子ども支援課がありあびっ子と学童保育が一体型で運営しているので、京都とは違うため、学校側とどういう風にすみ分けをするかというのは、きちんと話し合いをしていくということが、とても必要だと思うので、ひとつの学校ごとにも個性があるでしょうけれど、校長会や教育委員会ともこうした話をリンクさせて共通の議題として話し合うことも良いのではないかと思います。それから、先程委員がおっしゃっていたもっと学童のことを話してほしいという意見はとても良くわかるのですが、多分学童保育室は専任で雇われて安定しているためスタッフのみが運営しているので安心があるのですが、あびっ子クラブではサポーターさんや地域の人が入ってくれないととてもやっていけないという不安定さがあるため、あびっ子のことで検討しなくてはいけないことが多いのだと思います。裏を返せば、それだけ学童保育室が安定・安心しているのだと思います。

(委員長) ありがとうございます。他に何かご意見ご質問ありますでしょうか。

(委員) 我孫子の子育てが今、曲がり角とは言わないけれど、かたち・ソフト・充実に移っていかねばいけない、そういう時期になったのかと感じます。地域の方で子どもを育てよう、地域と共に子どもを育てよう。守り、育てようというスローガンがたくさんあるけれど、そういうものが、地域ボランティアだったり、あびっ子クラブだったり学童保育だったりという関わりの中で、何か一つの意図が見えてきたというか、何かのかたちで、それがきっかけとなって新しいステップにグレードアップする我孫子の子育て支援になっていくのではないかと感じました。そういう意味では、一緒にお話を聞いて良かったと思いました。二小さんの報告を聞いて思ったのは、学校、それから子ども支援課、それから保護者、組織の中でもっと情報を共有しながら時間をかけてつくっていかない限り、みんなが「そうだね。」と思えるような形にはうまくいかないと思いました。いろいろな組織・機能・場面があると思うので、それを是非活かしながら充実する方向に皆さんで考えていけたら、素晴らしいものができるのではないかと感じました。以上です。

(委員長) 他にいかがでしょうか。

(事務局) 布佐南小のコーディネーターですが、先程、家庭教育のことについて学校の考えをお話して

いただきましたが、布佐南小あびっ子クラブは学童保育と一体型で運営する中で、布佐小の子どもと一緒にみっていますが、学童保育では必ず勉強道具は出せるのですが、きちんとやれているのか心配することはあります。学童の父母会でも学習面の話を取り上げ、「学童で宿題はさせるのですが、最後の点検はご家庭でお願いします。」というお願いは何回もしているのですが、本当にご家庭で自分のお子さんのできている所、とできていない所を見てくれているのかが心配なことがあります。学童で宿題を見ていると、その子が引っかかっている所がわかるのですが、「あなたのお子さんはここが引っかかっていますよ。」ということ学童のスタッフという立場では言えません。そこは、すごく日頃悩んでいることです。ご家庭でやって欲しいことはあるけれど、現実的に学童保育を利用しているご家庭でそこまでできてない状況ということも日頃からわかっているのでもうよく言えないことがスタッフの悩みです。

(委員長) ありがとうございます。

(委員) 学童保育で宿題をやることは家庭学習により近いということではないでしょうか。自由に遊びにくるあびっ子クラブと家庭とは違うと思います。しかし、学童保育は家で過ごせないお子さんが放課後等過ごす生活の場所になっているので、学童で宿題をやる時間があるのは当然ですが、「学習をする場所」と「生活をする場所」という意味で、あびっ子クラブと学童保育は、違う場所であってほしいです。あびっ子クラブはボランティアさんに支えられている部分がとても大きいと思うので、ボランティアとして、「私、教えたいです。」という地域の方がとても多いと思います。少し前に、根戸小学校で英語の読み聞かせをしているボランティアさんから「英語を教えたい。」というお話をいただいたのですが、今、チャレンジの時間を設けられないので、根戸小学校のほうで実施している読み聞かせにお誘いして見学してもらったのですが、「これは違うと。きちんと教えたい。」とのことでした。学校ではボランティアさんの思いだけで教えられる場ではなく、学校の支援という基本姿勢でのぞまなくてはいけないので、現在はあびっ子クラブで活動しています。

(委員) そうですね。やはりあびっ子クラブのやり方の部分とボランティアさんのご希望がなかなか合わない部分があります。

(委員) 難しいですね。

(委員) チャレンジタイムも今は、毎回同じメンバーで行うようなお稽古ごとになっています。

(委員) そうですね。

(委員) 学習とお稽古、支援と見守りという区分けが、今、難しいところだとすごく感じました。私がやっている消しゴムはんこを作るというチャレンジはやりたい子が来てやるのですが、みんながやる勉強や宿題への対応はとても難しいと感じました。地域のボランティアさんはすごく熱心な方が多いので、学校とあびっ子クラブがきちんと話をしなくてはいけないと感じました。

(委員長) ありがとうございます。まだまだ整理しなくてはいけないことが非常に多いと感じました。他にご意見等ありますでしょうか。担当課としても教育委員会及び学校からいろいろお話を聞きながら、進めていけばと考えています。

ご意見がないようでしたらその他に入ります。次回の運営委員会開催日程は11月中旬に予定をしています。場所の確保ができ次第、通知しますのでよろしくお願いします。それでは第二回放課後対策事業運営委員会を閉会します。